

漢字字体規範史研究(第二期)(平成23年度第1回研究会)

日時:平成23年12月16日(金)～18日(日)、10:00～18:00

会場:東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所大会議室

漢字字体史研究国際シンポジウム「字体規範と異体の歴史」

International symposium on the history of normative glyphs and their variants

協賛:

科学研究費 基盤研究(A)漢字文化圏における典籍の集積、国際的伝播及びその伝承に関する実証的研究(研究代表者:石塚晴通(北海道大学名誉教授))

科学研究費 基盤研究(B)漢字字体変容の原理—敦煌文献から現代日本戸籍漢字まで—(研究代表者:高田智和(国立国語研究所))

12月16日(金) 10:00～12:00、13:30～18:00

西原一幸(金城学院大学) 唐代楷書字体規範からみた『龍龕手鏡』

池田証寿(北海道大学) 漢字字体の実用例と字書記述

高田智和(国立国語研究所) 国研本大教王經の漢字字体

紅林幸子(北海道大学) 書法と書体

岡墻裕剛(北海道大学) HNGにおける字種・字体の認識と異体処理

斎木正直(北海道大学) HNGの利用を通して見た親鸞・明恵の字体

賈智(九州大学) 『新訳華嚴經音義私記』所引の楷書字書の体裁・様式及び出典について

12月17日(土) 10:00～12:00、13:30～18:00

赤尾榮慶(京都国立博物館) 古写經の字すがた

石塚晴通(北海道大学名誉教授) 字体規範と異体の歴史(基調講演)

小助川貞次(富山大学) 敦煌漢文文献(漢籍)の性格とその漢字字体

Imre Galambos (British Library) Huiyi characters seen in Dunhuang manuscripts (敦煌本に見える会意字)

山田太造(人間文化機構) 日本史史料における翻刻データの作成支援と共有手法

白井純(信州大学) 「落葉集小玉篇」の部首配属からみたキリシタン版の字体認識

12月18日(日) 10:00～12:00

笹原宏之(早稲田大学) 異体字・国字の出自と資料

豊島正之(東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所) 金属活字の製作に於ける異体字

上記のプログラム通り進行した。

時間の 1/3 以上を質疑応答・ディスカッションに用いて、活発な討論が行なわれた。

一般の参観者も少なからず参加され、質疑応答にも参加された。

尚、本シンポジウムの結果は、別途出版を予定している。

(文責・豊島正之)